



米国西海岸ドライブ事情^{*1}

Drive in California

蓮沼 茂^{*2}

Shigeru HASUNUMA



昨秋、米国出張の際にカリフォルニアでレンタカーを借りてドライブする機会を得たので、今後業務あるいはプライベートで米国をドライブする可能性がある方のために簡単にカリフォルニアでのドライブ事情を紹介したい。

カリフォルニアでの運転

今回の出張の主目的は、アメリカの国防総省高等研究計画局（DARPA）が主催した無人ロボットカーレースを調査することにあった。レースは、ロサンゼルス市の北東約100kmのところにある米軍の物流関係飛行場跡地で行われたため、自動車しか交通手段がなく、特別に運転許可を得てレンタカーで行くこととなった。



レンタカー（GMCユーコン）

米国で運転するといっても、大きくは右側通行に変わる位で、信号や標識も日本と似たような表示であり、初めて見るものであってもある程度は想像がつくので、それほど難しいことは何もない。しかしながら、米国独自あるいは州独自の交通法規で日本とは異なる部分があるため、初めて運転される方は、インターネット等で米国およびドライブする州の交通法規を事前に勉強しておくことをお勧めする。筆者は米国で何度か運転した経験があったものの、カ

リフォルニア州の交通法規をあらためて見ると知らないことがいくつかあった。

日本とは違うルールをいくつか紹介すると、交差点で右折（日本での左折）する際に特に指定がなければ、前方が赤信号でも一旦停止後状況を見ながら右折できる点がある。日本のように混雑しているわけではないのでこうした方が効率的なのであろう。信号を守る必要がある交差点には、“No Turn On Red”という標識がある。また、都市部のフリーウェイには混雑緩和のために中央より“Car Pool”と表示されたレーンが設けられている場所があり、バスやタクシーなどの公共車両と多人数乗車の車両のみが走行できるようになっている。一昔前のロサンゼルスでは2人以上乗っていれば走れた記憶があるが、ロサンゼルス中心部の渋滞は年々悪化しているようで今回は3人以上になっているところが多かった。

今回新たに知った交通ルールの一つは、スクールバスに関する交通法規で、スクールバスが学童の乗降のために赤い点滅ライトをつけて停車している時は、たとえ反対車線にいても停止しなければ、最高1,000ドルの罰金と1年間の免許停止処分が課せられるそうである。もう一つは、わき道への左折用の中央レーンの利用方法で、今回の出張中にも何度か出くわしたが、対向車線と共用の中央レーンが1車線設けられている場合があり、信号のないわき道に左折する場合には、直前で一度そのレーンに入ってから左折するようになっている。よく見ると道路上に左折のマークが図示してあるのでわかるものの、初めて中央レーンを見る人はとまどうかも知れない。

ホテル

レンタカーでの移動ということで、ホテルは郊外の割安な（1泊100ドル程度）モーターあるいはそ

*1 原稿受理 2008年1月23日

*2 (財)日本自動車研究所 ITSセンター 次長

れに近いホテル（ベストウエスタンあるいはホリデイイン・エクスプレスクラス）に泊まった。モータールに泊まるのは始めてであったが、泊まってみると部屋は結構広いし、思ったほど治安も悪く無く大きな問題はなかった。モータールを利用する際に注意すべき点を列挙すると、①2階建位の所ではエレベーターがなく、大きなスーツケースを持っての階段の昇り降りは結構わびしいので、荷物は大きいものが1つよりも小さいものが2つの方がベターであること、②インターネットが部屋で使えるとの案内があってもなかなかアクセスできるものではないこと（むしろ利用可能なパソコンがビジネスコーナーにおいてある方が確実）、③日本のアパートのように外から直接部屋に入れるタイプの所は、人の出入りや車の出入りがそれなりにうるさいし無用心、④最も重要なことは、食事に行くのにも車が必要になる（運転手はお酒が飲めない）ことである。

ナビゲーション

今回は、郡部でのドライブが中心だったので、ナビゲーション付きのレンタカーを指定して借りた。ハーツレンタカーには“ネバーロスト”という、マゼラン社製と思われる音声ガイド付き携帯型ナビゲーションが装着できる車両が何台かおいてあり、これを試してみた。カーナビというよりは、アウトドア用の携帯ナビを車用にしたもので、画面も小さいし、使いづらそうな印象があったが、使ってみるとこれがなかなかすぐれのものであった。普段ナビが当たり前のカーライフを送っているせいもあると思うが、米国においても、例えこの程度のものであってもナビがあるとないとでは大違いということが良くわかった。使い方はきわめて簡単で、日本語にも対応しており、音声ガイドに従って目的地を住所などで入力するようになっている。オプション料金は1日10ドル程度なので、設定があれば必ず追加契約することをお勧めするが、装着可能になっている車種がまだ少なく、どちらかというと高級車や、レジャー用のSUV等に限られているようである。難点を言えば画面が小さいことで、その結果、地図も道路中心のきわめて簡単なものであるし、通りの名前も表示されるものの字が小さく運転中に見ることは難しかったため、知らない街だとどの辺りを走っているかはほとんどわからない。日本のナビのように地図を見ながら走るというよりは、音声ガイドの“あと何マ

イルで左折”とか、“すぐそこ右折”とか言うガイドにしたがって走るという使い方である。特に助かったのは、日本の首都高速のようにフリーウェイが頻繁に忙しく分岐するところで、ナビのガイドに従って走れば容易に分岐できるが、標識に従って行こうとすると必ずしも目的地の名前が出てこないの迷うし、一度でも間違ったらもとの場所に帰ってくるだけでも大変であろう。



ハーツレンタカーのナビ

レンタカーの借り方

我々はロサンゼルス空港からレンタカーを借りたが、空港でのレンタカーの借り方はどこでも大体同じようなもので、空港近くにあるレンタカー会社の事務所までは、空港との間を巡回しているレンタカー会社のマークがついたシャトルバスに乗っていく。シャトルバスは、レンタカー会社が個々に運行している場合と共同で運行している場合（この場合は事務所が同じエリアにある）があるが、発着場所は大抵空港に接する道路が2車線あるうちの奥側の道路の進行方向後方にある。事務所では予約時の控えを見せると話が早い。返却する際は満タンにした上で空港近くに行くと“Rental Car Return”と書いてある標識が出てくるので、それに従ってレンタカー会社の駐車場ビルに入ると返却レーンがあり、最後尾に止めると、ハンディコンピュータを持った係員が来て返却日時や燃料、走行距離などを入力して、クレジットカード用請求書をもって返却完了となる。余談だが、レンタカーの場合は借りる時が“チェックアウト”，返す時が“チェックイン”となっている。

終わりに

以上、米国でのドライブに参考になればということで紹介させていただいたが、異国の地でのドライブは危険も伴うため、初めての場合は、同乗者にサポートいただいたり、最初は空いた道や空いた時間帯に運転してみるなど、安全第一を心がけていただければ幸いである。